

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4673900082
法人名	医療法人 クオラ
事業所名	グループホーム アリエ
訪問調査日	平成 21 年 9 月 15 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 30 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 9月25 日

【評価実施概要】

事業所番号	4673900082
法人名	医療法人 クオラ
事業所名	グループホーム アリエ
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町船木2311番地8 (電 話) 0996-52-1262

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年9月15日 評価確定日 平成21年10月30日

【情報提供票より】(21年8月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.6人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	8400(光熱費) 円
敷 金	有(円) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 680円		

(4)利用者の概要(8月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低 70 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	クオラリハビリテーション病院・かわごえ歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームアリエ」は国道沿いのクオラグループ敷地の中央に平屋の2棟がある。隣には保育園、周囲には医療や介護の施設があり、利用者の生活を総合的に支援できる環境にある。リハビリを基盤としているグループと連携して、理学療法士など専門職の協力を得て利用者の筋力低下防止に努めている。職員はふれあいや思いやりを大切にして、利用者、家族が安心できる暮らしを支えている。人事考課制度を活用して、職員一人ひとりの段階に応じた育成をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価は全体会で報告され、改善点について話し合いをしている。家族等への報告については、金銭管理の報告は面会時に確認印をもらい、食費の残金についてはアリエだよりで報告するなど改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は介護主任を中心に一部の職員で意見を出し合い作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、民生委員、公民館長、さつま町職員、クオラグループの医療、福祉の関係者、利用者・家族の代表、職員で構成され2ヶ月に1回開催されている。ホームの現状や活動報告、職員の委員会報告、また参加者からの地域の行事の案内、要望などの意見交換の場となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議や家族会、面会時に意見や要望を聞いている。家族からの「リハビリに連れて行ってほしい」との意見を全体会で話し合い、ボランティアで理学療法士に来てもらうなど解決策を検討し、運営に反映している。9月6日には家族会(利用者も一緒)の運動会を開催。参加された家族から職員のさりげないおもてなしに感謝の手紙が届いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の敬老会、保育園の運動会、夏祭りに参加している。中高生介護体験実習の受け入れをしている。クオラグループがさつま町、薩摩川内市で開催している「よろづ塾(健康教室)」に、利用者も参加して地域の人との交流の機会をつくっている。また地域の馴染みの人と会える場でもある。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	クオラグループの理念「よりよい暮らしを実現するパートナーとして地域社会に貢献する。」をもとに「ご利用者様と共に暮らし共に寄り添う家族になります。」とグループホーム独自の理念を掲げている。	○	アリエ独自の理念の中に、地域密着型サービスとして実践に取り組む上での考え方を盛り込むことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を事業所の全体会（月1回）や仕事の前に唱和し意識している。職員の個人ネームの裏に書いてあり、いつでも確認できる。家族として、日々の生活で喜怒哀楽を共にしている時、理念を実感している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の敬老会、保育園の運動会、夏祭りに参加している。中高生介護体験実習の受け入れをしている。クオラグループがさつま町、薩摩川内市で開催している「よろづ塾（健康教室）」に、利用者也参加して地域の人との交流の機会をつくっている。また地域の馴染みの人と会える場でもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価は全体会で報告され、改善点について話し合いをしている。家族等への報告については、金銭管理の報告は面会時に確認印をもらい、食費の残金についてはアリエだよりで報告するなど改善に取り組んでいる。自己評価は介護主任を中心に一部の職員で意見を出し合い作成している。	○	自己評価については職員全員で評価項目を確認していただきたい。項目の一つひとつの意義を理解して、日々のケアをふりかえり、さらにサービスの質の向上のために具体的に活用されることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員、公民館長、さつま町職員、クオラグループの医療、福祉の関係者、利用者・家族の代表、職員で構成され2ヶ月に1回開催されている。ホームの現状や活動報告、職員の委員会報告、また参加者からの地域の行事の案内、要望などの意見交換の場となっている。		

鹿児島県 グループホーム アリエ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者はさつま町の担当者で行き来したり、月1回は電話やメールでアリエの現状報告や情報交換をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌「アリエだより」を3ヶ月に1回発行している。利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の面会時や電話で報告をしている。遠方にいる家族には近況報告と写真や担当職員の一言を添えて報告している。金銭管理は行っていないが、利用者が家族より預かっている場合は金銭出納帳をつけ面会時に確認印をもらっている。家族の知りたいことが報告できるように、面会時には話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、面会時に意見や要望を聞いている。家族からの「リハビリに連れて行ってほしい」との意見を全体会で話し合い、ボランティアで理学療法士に来てもらうなど解決策を検討し、運営に反映している。9月6日には家族会(利用者も一緒)の運動会を開催。参加された家族から職員のさりげないおもてなしに感謝の手紙が届いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にグループ内の異動はないが、辞職者が出た場合は、引継ぎ期間を1ヶ月間とり、利用者へのダメージを防いでいる。転属した職員が遊びに来てくれる。本人、家族とのコミュニケーションの機会を増やしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	クオラグループ内の研修の年間計画があり、全職員が参加している。またアリエ独自でも教育委員会を立ち上げ研修をしている。、外部の研修にも随時参加して研修報告書をあげ、全体会で報告している。管理者は、人事考課制度を活用して職員一人ひとりと面接を行い、段階に応じた研修を積極的に勧めている。職員の資格取得もすすめている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いずみ川薩支部に入会して、研修や事例検討会に参加し同業者との交流する機会をつくっている(年3～4回)。町役場が主催している地域のグループホームとの意見交換会にも参加している(年1～2回)。他の事業所を見学したこともある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にアリエの周辺までドライブ、アリエ内の見学、そして他の利用者と接するなど徐々に馴染めるようにしている。利用が決まってからは自宅を訪問している。入居してからは家族の面会を多くしてもらおうなど工夫している。グループの通所サービスからの利用も多く馴染みの環境でもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は「人生の先輩であることをわきまえて、ケアにあたる人が、形だけでなく気持ちを大切にするように」と指導している。季節の料理(干し柿づくり、ラッキョウ、梅干づくり、竹の子の皮むきなど)や行事食の作り方、昔ながらの行事、また野菜や花作りも教えていただいている。職員は理念を意識しながら共に支えあう関係をきずいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常生活の中で本人の希望や意向を傾聴するように心がけ、普段から出る言葉でも拾い上げるようにしている。また家族からも本人の思いを聞いている。個人記録には一人ひとりの行動、言葉や表情など、観察したことが記録されている。アリエの掲示板サイボウズ上で情報(気づきの意見や個人の受診状況など)を共有して、個別に対応できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アリエアセスメント表をつくり、本人、家族の希望や職員の意見(全体会)、主治医の意見を取り入れて介護計画を作成している。地域で暮らしていくことも介護計画に盛り込んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は介護目標にそった行動計画を毎日チェックし、月1回全体会で介護計画の確認をして、状態の変化に応じてその都度見直しをしている。モニタリングを3ヶ月に1回行い定期的に見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて病院受診の支援をしている。医療連携体制を活かして、訪問看護師による週1回の健康チェックを実施している。併設のリハビリ施設の利用や理学療法士、作業療法士に指導を受けながら利用者の機能訓練を行い、筋力低下に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で協力病院がかかりつけ医となっている。週1回訪問診療があり、他科受診についてもかかりつけ医より情報提供をもらうなど適切な医療が受けられるように支援している。月1回専門医の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期ケア対応指針を活用して契約時に説明している。同意書は利用者の状態の変化に応じて家族と話し合いもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法については毎年研修を行っている。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉かけやさりげない対応を心がけている。法人内の接遇委員会で研修を受けてきた職員が伝達講習を行い意識付けをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間をづらしたり、居室で編み物や大正琴を楽しむなど利用者一人ひとりのペースに合わせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は野菜切り、盛り付け、味見、台拭き、配膳、下膳など、職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。誕生日には本人の好きなものを提供している。ユニット間の交流のために食事会をしている。利用者と職員が会話をしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の希望や体調に応じて支援している。入浴を拒まれる人には、声かけのタイミングや職員を代えたり、足浴や清拭に変えたりなど工夫している。音楽をながしたり、湯にうかべるものを準備して入浴を楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	山菜とり、野菜作り、ラッキョウや干し柿作り、洗濯、ごみ捨ての手伝いなど、得意分野を発揮してもらえるよう支援している。施設内の散歩や通所の施設に行き地域の人との交流、庭先に来るパン屋での買い物など日々の生活を楽しんでいる。管理者は仕事としてではなく、本人の張り合いや喜びとなる役割を考えていきたいという思いがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	クオラグループの敷地内の散歩、虫見や夜の音楽会（虫の鳴き声を聴くなど）を兼ねたドライブ、よろづ塾への参加や季節を感じる（初詣、そうめん流し、外でのバーベキューなど）外出の機会をつくっている。職員と一緒に食材の買い物や希望に応じて自宅や住み慣れた地域に出かける。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていないので自由に出入りできる。職員の見守りとグループ内の掲示板での情報を共有する協力体制で、利用者の自由な暮らしを支えている。グループ内の敷地が広いので、今のところ地域まで外出した人はいない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自動火災設備報知がある。夜間の緊急時対応についての実践的訓練を抜き打ちで行っている。アリエ独自では避難訓練を年2回実施。またグループ内の各施設での訓練（年2回）にも参加している。水や食料の備蓄をしている。地震訓練は1回行ったことがある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
消防署の指導の下					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養摂取量はおよそ1200～1500kcal、水分は1300～1500mlで、食事と水分摂取量をチェックしている。月2回の体重測定、往診や血液検査で栄養状態を把握している。栄養士にアドバイスをもらったり、食事作りの研修に参加して、季節感を取り入れ栄養のバランスに配慮した献立を考えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は吹き抜けで天井上から自然の光が入り明るい。まぶしすぎないように天窓に布をかけている。共用空間が広く、全員が座れるようなソファが配置され、またシルバーカーで歩行する姿もみられる。弐番館の居間には畳の間がある。テラスのウッドデッキには、布団や洗濯物が干してある。プランターの花や野菜、すだれが季節を感じる。掃除もいきとどき居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	弐番館の居室は和室と洋室があり、和室では布団を敷いて休まれる人もいる。居室には、ベッドやタンス、テレビなどが持ち込まれ、食器も本人の馴染みのものを使っている。各部屋には家族の写真や作品が飾られ居心地よく過ごせるように工夫している。		